

Drager 社製 Evita infinity® V500 の導入により変化した呼吸器管理

西條幸志

●はじめに

近年人工呼吸器には特殊なモードや機能が備わることで、病態による患者個々の様々な呼吸状態に対応可能となっている。しかし、トリガーや呼気弁といった基本的な性能は自発呼吸同調性を左右するものであり、特に術後覚醒時期の管理においては重要なポイントである。当院では Drager 社製 Evita infinity® V500 (以下 V500) の自発呼吸同調性が優れていることが評価され (Drager 社「Evita infinity® V500 の使用経験」参照)、2012 年 3 月導入後、心臓血管外科術後挿管症例は全て V500 を使用している。

● V500 導入による挿管日数推移

当院心臓血管外科術後挿管管理症例において、V500 の使用率は 2011 年 17%、2012 年 75%、2013・2014 年 100% (図 1) であり、挿管管理症例数は増加傾向にあるが、平均挿管日数は減少推移となっていた (図 2)。

この要因について検討したところ、術後当日・翌日抜管数が V500 使用開始年である 2012 年から急増し、当日抜管数においては 2011 年比較 312% 増 (2011 年 17 例→2014 年 53 例) となっていた (図 3)。

結果から、術後速やかに抜管できる症例が増加したことが挙げられ、トリガーや呼気弁といった基本性能が高い V500 導入が寄与した可能性は高い。しかし、今回は単純に全症例による解析であり、重症度、術前

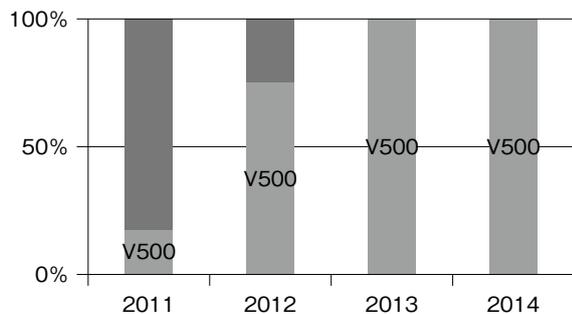


図 1 V500 使用率の推移

肺機能などについては検討しておらず、どの程度寄与したかは不明であるため、今後の課題としたい。

●まとめ

術後覚醒時期における自発呼吸同調性は循環動態に及ぼす影響も大きく、鎮静薬の増量などにより挿管日数の延長を余儀なくされる場合もある。今回、挿管日数の減少が見られたことは、術中を含めた患者管理の変化や、臨床工学技士の ICU 常駐など環境的な変化も要因として挙げられるが、V500 の導入が自発呼吸同調性を向上させ、術後覚醒時期の不安定な呼吸状態に対し安定した管理を行えたことも要因のひとつであると考えられる。

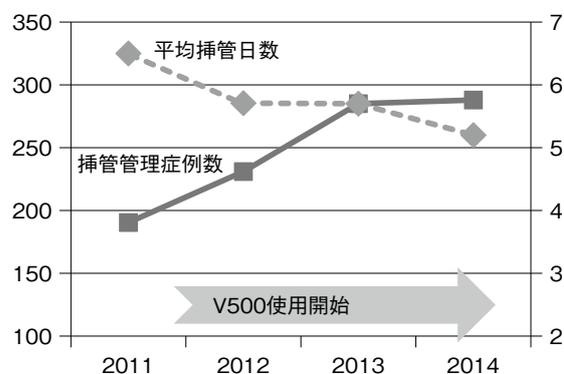


図 2 挿管症例数と平均挿管日数の推移

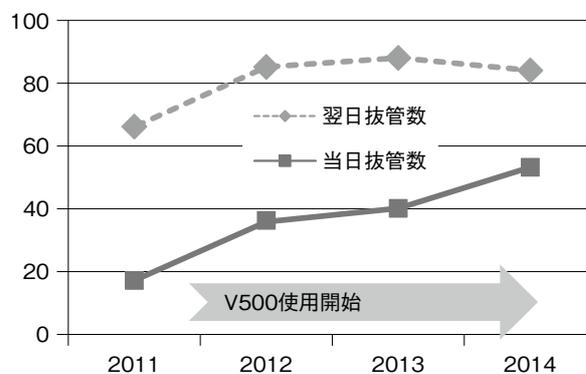


図 3 当日/翌日抜管数の推移

How can
technology
advance
therapy?



NEW: Evita Infinity® V500
Infinity® ID accessories

スマートテクノロジー

無限の可能性を持つインフィニティ アキュート ケア システムのエビタ インフィニティ V500は、その機能、オプション、アクセサリによって臨床現場に大きく貢献します。

- 患者さまの安全性を向上
- 人工呼吸の設定の最適化
- 人工呼吸時間の短縮

www.draeger.com

Dräger. Technology for Life®